

**公立大学法人京都市立芸術大学
第2期中期目標期間業務実績(見込)
評価書**

令和4年9月

**公立大学法人京都市立芸術大学
評価委員会**

1 全体評価

公立大学法人京都市立芸術大学は、世界の「文化首都・京都」の都市格を一層高めることに貢献するため、特色のある教育研究による創造的な人の育成、教育研究成果の社会への還元に加え、公立大学としての地域貢献を行うなど、「世界に広がる創造の一大拠点」となる魅力的な大学として存在感を発揮していくことを目指し、市が示した第2期中期目標をもとに策定した中期計画に基づき取組を進めている。

このたびの評価は、今期目標期間（平成30～令和5年度）のうち4年が経過したことを受け、地方独立行政法人法に基づき、評価委員会として法人による自己点検及び自己評価をもとに、今期の目標達成に向けた進捗状況や解決すべき課題への対応、さらには環境変化に伴う想定外の状況への対応等について客観的な立場で評価を行うとともに、第3期中期目標（計画）の策定に向けての準備の一環と位置付けることを目指して行った。

総体的には、大学の教育研究等の質の向上への取組、情報の提供に関する目標達成への取組、キャンパス移転に向けた取組の各分野において着実な成果が見られ、**第2期中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況**と評価しており、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大のような環境変化に伴う想定外の状況に対する積極的な対応も評価したい。

財務内容の改善に関しては、令和5年度に控えたキャンパス移転に向け、寄付金獲得のための積極的な取組を進めているが、そのノウハウは、大学の自主財源確保のための外部資金獲得にも繋がるものであり、キャンパス移転後も、取組の継続を期待したい。

少子高齢化の一層の加速による大学間競争の激化、社会の急速なグローバル化の進展への対応など法人を取り巻く環境は、大きく変化していることに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、改めて大学の存在意義が問われる時代が到来している。

新キャンパスの移転を控え、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの核となる公立の芸術大学として存在感を大きく発揮し、広く社会全体に貢献していくことを目指し、理事長のリーダーシップのもと、今期計画の達成はもとより、時代の変化を捉えて大学の将来を見据え、更なる大学の発展に向けて、積極的に取り組んでいただきたい。

本委員会において、特に積極的な取組として評価する例を以下に挙げる。

- 新型コロナウイルス感染症が拡大する状況において、感染拡大防止に努め、感染拡大を起こすことなく対面による実技教育を継続し、さらに外部人材の活用、教育内容の見直し、教職員も含めた研修を実施するなど、様々な角度から高度な技能、技術や幅広い豊かな教養の修得に向け様々な取組を進め、人材育成や学部教育の充実を図った点について評価できる。

また、入学者選抜においては課題が多く見込まれるが、適性や能力を多面的・総合的に判断できるよう、データによる作品提出や入試に関するシステムの導入と活用、さらに進学説明会・オープンキャンパスでも様々な工夫を凝らしながら PR に努めた点について、評価できる。（No.1、2、4）

- キャンパス移転の機運醸成のため実施している移転整備プレ事業について、JR西日本及び京都駅ビル開発株式会社との連携により京都駅で実施していることによって、市民だけでなく、観光客など多くの方に幅広くPRできた点が評価できる。

また、作品・新キャンパス模型の展示やサイネージの活用のみならず、コンサートやライブペイントの実施など、芸術大学としての魅力や価値をライブで表現し、うまくPRしている点が評価できる。(No. 24)

2 項目別評価

項目別評価一覧

項目	判断基準				
	S	A	B	C	D
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標		○			
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標		○			
第3 財務内容の改善に関する目標		○			
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○			
第5 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標		○			
第6 その他の業務運営に関する重要目標		○			

※評価の判断基準

- | | | |
|---|-------------------------|----------------|
| S | 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある | (特に認める場合) |
| A | 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる | (全てⅣ又はⅢ) |
| B | 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる | (Ⅳ又はⅢの割合が9割以上) |
| C | 中期計画の達成のためにはやや遅れている | (Ⅳ又はⅢの割合が9割未満) |
| D | 中期計画の達成のためには重大な改善事項がある | (特に認める場合) |

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
-----------	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	III	IV	計
評価対象項目数			13	3	16
教育に関する目標			5	3	8
研究に関する目標			2		2
その他の目標			6		6

(3) 業務の進捗状況に関するコメント、特筆すべき点、遅れている点等

【No.1】 教育の内容と成果の充実を図るための取組(学部)

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況において、感染拡大防止に努め、感染拡大を起こすことなく対面による実技教育を継続し、さらに外部人材の活用、教育内容の見直し、新たな専攻細目の設置など様々な取組を進め、人材育成や学部教育の充実を図った点について評価できる。

【No.2】 教育の内容と成果の充実を図るための取組(大学院)

新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、対面による実技教育を継続していることに加え、教育内容の見直し、教育環境の整備、教職員も含めた研修を実施するなど、様々な角度から高度な技能、技術や幅広い豊かな教養の修得に向け取組を実施した点について評価できる。

【No.4】 より優秀な学生の確保に向けた取組

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況において、入学者選抜については課題が多く見込まれるが、適性や能力を多面的・総合的に判断できるよう、データによる作品提出や入試に関するシステムの導入と活用、さらに進学説明会・オープンキャンパスでも様々な工夫を凝らしながら PR に努めた点について評価できる。

【No.6】 教育研究に必要な環境等の充実に向けた取組

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況において、教育環境の整備として感染対策は不可欠であるが、加えて移動制限がある中、情報共有の在り方は重要なポイント

であり、ポータルサイトの活用を積極的に行っている点について評価できる。

【No.10】 研究への支援

科学研究費について、獲得促進のため、申請支援サービスを利用するなど、積極的な取組を行っている点について評価できる。

【No.13】 産学連携の推進

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況においても、多くの連携事業に取り組み、新たな連携協定締結を実現した点が評価できる。また、キャンパス移転の機運醸成のため実施している移転整備プレ事業について、**JR** 西日本及び京都駅ビル開発株式会社との連携により京都駅で実施していることによって、市民だけでなく、観光客など多くの方に幅広く **PR** できた点が評価できる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
----	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	Ⅲ	Ⅳ	計
評価対象項目数			2		2
組織の見直しと経営の効率化			1		1
組織力の向上			1		1

(3) 業務の進捗状況に関するコメント, 特筆すべき点, 遅れている点等

[No.18] 組織力の向上

美術学部研究科における専任教員に占める女性教員割合を増やす目標については、実現が難しい内容ではあるが、時代の流れにも即しており、達成に向け、引き続き取り組みたい。

第3 財務内容の改善に関する目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
-----------	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	III	IV	計
評価対象項目数			3		3
外部資金その他の自己収入の増加			1		1
経 費 の 効 率 化			1		1
資産の適正管理と有効活用			1		1

(3) 業務の進捗状況に関するコメント, 特筆すべき点, 遅れている点等

[No.19] 外部資金その他の自己収入の増加

寄付金の獲得に向け、順調に実績を伸ばしている点について評価できる。クラウドファンディングについては、実施すること自体に大きな広告効果もあることから、積極的な活用が望まれる。また、芸術大学の特色を生かして、寄付作品によるオークションを開催するなど、様々な手法による寄付の獲得方法についても検討されたい。

[No.20] 経費の効率化

業務運営や経費執行の効率化について、毎年の年度計画において目標を立て、具体的な取組内容を検討されたい。また、移転後の大学の収支について、複数ケースでシミュレーションするよう取り組まれたい。

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
-----------	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	III	IV	計
評価対象項目数			2		2
評価の充実			1		1
広報の充実			1		1

(3) 業務の進捗状況に関するコメント, 特筆すべき点, 遅れている点等

[No.22] 第3期認証評価の受審

認証評価の結果について、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づく成績の付け方や、学位授与の基準の見える化が求められており、指摘事項については、改善に向け、第2期中期目標期間中に検討に着手されたい。

[No.23] 広報の充実

ホームページ等へのアクセス数だけでなく、大学や教員のメディアへの登場回数など、大学の情報発信がそれぞれ想定しているターゲット層に効果的に届いているかを把握、分析し、次の広報、情報発信の手法を検討されたい。新キャンパスへの移転を控え、今後どのような発信をしていくのか期待している。

第5 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
----	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	III	IV	計
評価対象項目数			1		1
キャンパス移転に向けた取組の推進			1		1

(3) 業務の進捗状況に関するコメント, 特筆すべき点, 遅れている点等

[No.24] キャンパス移転に向けた取組

キャンパス移転の機運醸成のため実施している移転整備プレ事業について、JR 西日本及び京都駅ビル開発株式会社との連携により京都駅で実施していることにより、市民だけでなく、観光客など多くの方に幅広く PR できた点が評価できる。(No.13 再掲)

また、作品・新キャンパス模型の展示やサイネージの活用のみならず、コンサートやライブペイントの実施など、芸術大学としての魅力や価値をライブで表現し、うまく PR している点が評価できる。

新キャンパスの新築工事が進み、移転の注目度が高まっている中、移転整備プレ事業は、大学を PR することにも繋がるため、今後も継続した実施が望まれる。

第6 その他業務運営に関する重要目標

(1) 達成状況見込の確認結果

評価	A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (全てⅣ又はⅢ)
----	---

(2) 評価の内訳

評価区分	I	II	III	IV	計
評価対象項目数			3		3
施設設備の整備等			1		1
安全管理			1		1
法令遵守及び人権の尊重			1		1

(3) 業務の進捗状況に関するコメント, 特筆すべき点, 遅れている点等

[No.27] 法令順守及び人権の尊重

科学研究費に関する啓発については、新規採択者に対する各種研修の実施はもとより、教職員全体に対する研修会や説明会等の実施など、継続的な啓発支援にも取り組まれない。

また、美術学部研究科における専任教員に占める女性教員割合を増やす目標については、実現が難しい内容ではあるが、時代の流れにも即しており、達成に向け、引き続き取り組まれない。(No.18 再掲)